

このFAX通信を書かせていただいてももなく200回を数える事になります。

会議所は皆さんから会費、特別会費を頂きながら多種多様な会員の方達へと直接利益を供与することは出来ません。

また、新しい事業への実施判断、利害の保証も出来ません。会議所そのものが利益を目的とした独自の事業もしてはならないと思っております。

会議所は皆様に一早く適格に情報を提供し、皆様に情報を判断していただき、会員の方達から依頼があれば調査、相談、企画等のお手伝いをさせていただき事が役目であります。忙しい毎日を送る会員の方達には会議所を如何に活用していただき、毎日のお仕事に役立てて下さることであります。

私はそうした考え方からテレビ雑誌等の様々な情報、噂を聞いて興味、期待のあるものは直接現地に足を運び、自分の目で確かめて皆様にお伝えする役目を致して参りました。私の家業が食品販売業でありますので、お読みになる方々には内容が物販業に片寄りがちとのご批判もあるかと存じますが、出来るだけ乱読と言われる読書量と恵まれた人脈からの意見を聞いて、補わせていただいで努力いたして参りました。

最近の業界紙、行政の報告書を読んで気がつく事は「地方商店会は、今のままでは10年後には消えてしまうだろう」と言う記事であります。

つい先日、船橋の玉川へと花見に招かれて参りましたところ、「秋元さん！お久しぶり！」と声をかけられ、振り向くと船橋ららぽーとの前田会長でありました。

「ららぽーとは30年前に車社会を予測して作り、予想は的中して来客の80%は車で来られました。最初の10年は20歳代のヤングファミリーを、次の10年は10代後半のギャルを、そして今は40歳代後半の方々とその都度40店前後の店をリニューアルして今日まで参りました。少子高齢化社会を迎えて車のお客さんは57%となりました…」と語ってくれました。

今新しい言葉に「道中(みちなか)・駅中(えきなか)・街中(まちなか)」と言う販売方式名が生まれました。

JR東日本等が、駅中商店街作りに力を入れて、これが大成功しているからであります。

君津駅も南北駅前構想が進んでおります。駅前商店会は会員の再構築、合併まで視野に入れて商店会のリーダーの方々の指導力を期待し願ってやみません。

国道410号線は小櫃から清和鴨川へ貫ける幹線道路で平均4300台の車ですが、開通予定の5年後は極めて重要なロードサイドとなります。

アクアラインを越える観光客はこのままですとゴールデンウィークには大渋滞となると思われます。今からその対策が必要であります。

入込人口はかずさ地域1500万人、安房地域1700万人は予想されます。

こうした新しいまちの既存商店は地元の需要を賄うこと、農作物を観光客に提供する両面を持つことが道中経営を成立させる方法だと言われます。売店も飲食店も笑顔と愛相の良い会話が何よりものブランドです。

田舎の商店は1軒だけ自立するのではなく、軒を連ねて相乗効果を求める事が必要であり、お客様もそれを望んでおられるからであります。

今私達が夢を画き、決心しなければ次の時代を託する若者達を失望させ、後継者を失うからであります。